



チャレンジデー協賛 「藤崎名所めぐり」春のウォーキング

令和元年度春のウォーキングは、チャレンジデーに合わせて5月29日(水)、午前10時から藤崎地区の史跡探訪を行った。

当日、藤崎老人福祉センターに集合し、館山会長から「チャレンジデーには老人クラブ連合会としての初めての参加であり、元号が新しく変わった令和元年に相応しい、藤崎町の歴史を知ることができると楽しいウォーキングにしましょう。また、ATVのテレビ取材もあり、元気に頑張らしましょう」との挨拶があった。続いて健康推進委員会横山恵子会長の指導のもと準備体操を行い出発。文化協会藤田則昭事務局長が史跡の説明のため同行した。

- コース
- ① 藤崎駅
 - ② せせらぎ遊歩道
 - ③ 藤崎八幡宮
 - ④ 藤崎教会
 - ⑤ ふれあいずーむ館
 - ⑥ 堰神社
 - ⑦ 鹿嶋神社
 - ⑧ 藤崎駅

藤田事務局長の名所での説明は丁寧でわかりやすく、藤崎町の歴史の一端を知ることが出来た。参加者からもっとお聞きしたいと思つた。



たいとの声もあった。しかし、時間の制約から出来なかつた事は残念であった。講師の藤田さんには、別な機会を設けてじっくりお話をさせて頂き



藤田則昭講師より解説を聞く(藤崎八幡宮)

発行者
藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎老人福祉センター内
電話 七五―三三三―

たいと思つた。また、藤崎教会では、牧師さんの説明と附属の幼稚園長さんのパイプオルガンの演奏を聴くことが出来、荘厳な音色に参加者はうっとりとして聞き惚れ、疲れを癒やしていました。

ウォーキング終了後に藤崎老人福祉センターで昼食と懇親会を開いた。参加者は例年に比べ、チャレンジデーのほかの行事と重なったこともあり、20名と少なかつたけれど、みんな、元気に充実した1日でした。

第4回 老連会長杯グラウンド・ゴルフ大会 優勝杯は泉田裕明さんへ

老連会長杯グラウンド・ゴルフ大会は、快晴の天候に恵まれた西豊田児童公園で、グラウンド・ゴルフ部員と一般参加者も加わり54名で開催された。

最初に館山老連会長の励ましの挨拶があり、ルール説明の後、ラジオ体操第一のメロディーに合わせて、からだをほぐした。抽選で競技グループを決め、合図で8ホールを3回まわり24ホールの合計点数で試合が始まった。

グラウンドの様子は干乾のため芝生は枯れ、堅い土の上で行っている状況で、ボールは遠くに転がってボールのコントロールには全ての方が苦労していた。結果は、グラウンド・ゴルフ部員の方の優勝は泉田裕明氏(朝日町)で、新しく用意された優勝杯を獲得した。また、一般の部では、加福哲三氏(東町)が優勝した。10位までの結果は表にまとめた。



優勝杯は泉田裕明氏へ



準備体操で体をほぐす

順位	氏名	打数	1打	2打
優勝	泉田裕明	54	1	13
準優勝	工藤勇造	57	1	12
3位	伊藤定範	58	3	6
4位	平川良一	61	1	7
5位	藤本勝郎	62	2	7
6位	葛西鉄美	62	0	11
7位	間山由吉	63	0	10
8位	米村明	64	1	6
9位	横山強	64	1	4
10位	鹿内達男	64	0	11

有効といわれている。グラウンド・ゴルフ部では、会員を募集している。

常盤地区では毎日、午前9時より、藤崎地区では火・木・土の3日間が練習日で午前9時からおこなっている。興味のある方・健康維持の方などは練習に参加して下さい。

練習場所は、常盤地区は「福島子どもの森公園」、藤崎地区は「西豊田児童公園」です。用具等は全て用意しておりますので、お貸しします。

お気軽にお立ち寄り体験して下さい。



ナイスショット!

順位	氏名	打数	1打	2打
優勝	加福哲三	67	1	6
準優勝	木村力藏	74	0	6
3位	清野正廣	75	0	3
4位	木村美智子	76	0	4
5位	小林明美	78	1	1
6位	三浦進	79	0	4
7位	加福孝二	80	0	2
8位	平山久雄	80	0	2
9位	大川雄弘	81	0	2
10位	竹内義浩	82	0	5

女性部「笑う健康体操」講座のお知らせ

- 一、日時 7月10日(水) 10時より
- 二、場所 藤崎老人福祉センター 集客室
- 三、テーマ 笑う健康体操 元気に楽しく笑って、講師 ラフタルム 小嶋 朋子氏
- 四、持参するもの ①飲み物 ②バスタオル ③汗拭きタオル ④動きやすい服装

第3回老連会長杯。へタंक大会のお知らせ

- 一、日時 7月18日(水) 9時〜15時
- 二、会場 スポーツプラザ藤崎(8時45分に集合)
- 三、参加者及び参加料 チーム編成 1チーム3名(男女混合でもよい)

日	曜	行事	時刻
1	月	芸能部	12:00
2	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
3	水		
4	木	囲碁・将棋部	12:30
5	金	役員会 芸能部	10:00 12:00
6	土		
7	日		
8	月	生け花部 ふじ健大OB会	10:30 13:00
9	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
10	水	女性部「笑う健康体操」 茶道部 菊花部	10:00 13:00 13:00
11	木	囲碁・将棋部	12:30
12	金	芸能部	12:00
13	土		
14	日		
15	月	海の日	
16	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
17	水	広報委員会	13:30
18	木	老連へタंक大会	9:00
19	金	芸能部	12:00
20	土		
21	日		
22	月	生け花部	10:30
23	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
24	水	茶道部 菊花部	13:00 13:00
25	木		
26	金	芸能部	12:00
27	土		
28	日		
29	月	芸能部	12:00
30	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部 【白寿】配布日	12:00 12:30 12時以降
31	水		

- 参加料 1チーム二千円(弁当代を含む)
- 四、申込方法 各単位クラブには【白寿7月号】に申込書と同封し、専門部及び女性部には別途届けます。
- 五、申込〆切 7月12日(金)
- 六、申込場所 藤崎・常盤 両老人福祉センター窓口
- 七、その他
 - ①開会式後、藤崎スポーツ推進員のもとで、午前中はリーグ戦、午後はトーナメント戦を実施します。
 - ②単位クラブ・専門部・女性部・委員会等から最低2チーム以上の参加を期待しています。(何チームでもよい)

わくわく講座 健康講演会 知って防ごう! 大腸がん

近年増加している大腸がんですが、藤崎町では、がん死亡者の1〜2割は大腸がんです。平成29年は、大腸がんは、胃がんと共にがん死亡の第1位になっています。今回は、大腸がんの病気や、予防・早期発見の重要性について、講演頂きます。

- 一、日時 7月31日(水) 13時30分〜15時
- 二、場所 藤崎文化センター 3階 多目的ホール
- 三、講師 公益財団法人 青森県総合健康センター 診療所長 下山 克先生
- 四、申し込み締切 7月24日(水)
- 五、参加料 無料
- 六、お問い合わせ 福祉課 健康係 八八一八一九七

老連分担金 納入のお願い

単位老人クラブ会長 各位
町からの補助金は6月末日迄に振り込まれています。通帳を確認してください。町老連の分担金を左記により納入して下さいようお願いいたします。

- 一、納入期日 7月10日(水)
- 二、納入場所 藤崎老人福祉センター 温泉窓口
常盤老人福祉センター 社協窓口
- 三、納入額 六、〇〇〇円

女性部だより 雑巾縫製し町内中学校へ

平成から令和へ元号が代わりました。女性部雑巾奉仕活動も今年で3回目となり、5月8日(水)、藤崎老人福祉センター教養娯楽室で会員18名の参加で、会話や情報交換を楽しみながら雑巾づくりをしました。

途中、津軽新報社の齋藤記者が取材にみえ、5月12日の同紙に「学校への手縫い雑巾」という見出しで紹介されました。

朝食は各自持参となっていました。女性部で用意したおにぎりや漬物で、味と会話を楽しみながらの昼食会になりました。

午前10時から午後2時頃まで雑巾をつくり、また、自宅で作り届けた方々のと合わせ三一六枚なり有難うございました。

後日5月20日(明)明徳中学校と藤崎中学校へ各一五〇枚ずつ届け、2校ともに大変喜ばれました。

時間をさいて参加して下さい、ご自宅で作って届けて頂いた方々、沢山の方々の思い有難うございました。

女性部ではこれから様々な行事を計画しております。その都度【白寿】でお知らせします。お誘いあわせの上ご参加をお待ちしております。



縫製作業で疲れた後の楽しかった昼食



令和元年度 女性部 雑巾縫製仕事業 2019.5.8



縫製作業中の参加者

古老が語る 「物知りの記録」(1)

この「物知りの記録」は、平成3年度(今から、28年前)に旧常盤村の古老から、若い頃の生活を語って頂いた記録である。

記録の内容は、当時の生活の様子(地域の移り変わり・出来事・衣食住・祭り・行事・遊び)を各地区毎の14人の古老から対談方法でテープ収録したものである。生活の移り変わりを記録して後世に残すことと、子供達に語って欲らばと思ひ「物知り記録」に取りかかり、その年に古老からの取材を終えた。

この度、老人クラブの皆さんが、当時の生活を思い描く一つのきっかけになればと思ひ、町老連機関紙【白寿】に連載の予定で投稿した。

大字常盤地区 (平成3年6月20日集録)

古老1(男) 82歳

1 地区に昔あったが現在なくなったもの等について
北常盤駅前にパチンコ屋と旅館があった。百貨店という名前の店や馬車屋もあった。
バスが通って、発着は駅の所から黒石まで行った。駅の近くには、映画館もあった。

昔、常盤地区には世帯が55軒より無かった。1軒を別家にする1軒が居なくなった。つまり常盤地区は55軒より多く住む環境でなかった。これは水田の耕作面積による。55軒より多く耕作する水田が常盤地区には無かった。これは、どこの集落も同じであった。昔は借地(小作)だから一人が別になると、今まで作っていた水田が2反歩ほど少なくなるので生活が苦しくなる。生活が苦しくなると、「たのもしこ」(頼母子講)があった。たのもしこ、たすかる、貧乏になつてしまえば皆から10円ずつ、およそ30人から40人が参加した。55軒よりないので、その人達から10円ずつ集めて宿をやる。宿をやるというのは、1回集まれば飲ませながら、次の借人を決めるための集会で、その時に「せり」で利息の高い人に落札する。

2 衣食住について

服装 着物・ボドを着た。ボド(布を針で何度も刺して纏った古着)は、布れ地を刺し縫いして裂れないように、厚くしたもので綿をいれた。機で布を織った。余所へ行く時は着物を着た。寝る所に布団がない。4畳の部屋全体に草を敷いて、それに蓆座を敷いた上に寝る。掛け物は「ブランケン」で毛布をフランケンと言った。別なものでは、土間にぬか(糊殻)を敷き、その上に「ムシロ」(蓆)で生活する家もあった。履物は足高(草履の一種)があった。草履だと布の紐を付けた。縄で縛った足高、短靴、長靴は綺麗に編んで

自分で作った。鱈を干した。1年に1回、青森の油川から「馬ソリ」にいっぱい買ってきて、漬けたり干したりした。ニシンは安かった。魚売りは「折り板」を3つ背負って来るだけ。盆と正月はご馳走を拵えて食べたものだ。煮染め、小豆飯など、沢山拵えた。

住まい 殆どの家で戸が無い。厚い蓆を下げている。戸がある家は入口に戸があれば良い方である。蓆を下げておくのは便利で、頭で「押つけ」て、入れるからである。「ニワ」は土間のことで、寝る所には板を敷いていた。土間に「ぬか」(糊殻)を敷いて「ムシロ」(蓆)はごく一部の人である。昔、掛け布団に袖がついていた。袖にも綿が入っていて温かかった。

正月 元日は、30人〜50人集まってお祝いし、飲んで騒いだ。1日中飲んだ。
お盆 13日から家の角口に迎え火は、木を重ねて焚く。だいたい後になって藁を1束焚くようになった。1週間位続けた。仏様に上げた物は、3日位上げた後、ハスの葉に包んで川に流してやった。

結婚式 結婚式は4日位やった。小さくやった家でも、2日〜3日はやった。その家の子供達全部連れてくる。四つ座敷は50人位入るといっぱいになった。兵隊ごっこが多かった。

子供の頃 蚕を育てて売ると7円〜8円になる。弘前市に鎌倉製糸があつて売った。蚕を育てる時は4〜5人皆に、5銭でアメ玉を買ってやって、蚕に使う桑の葉を取りにやった。毎日葉をやった。そのお金で黒石の材木屋から、木を買ってネプタをこしらえた。村中(常盤地区)で1つより出さないで何年も続けた。小学校3年生の頃から中学2年生までやった。

蚕を育てることは、村長が進めた。皆に桑の木を植えさせてやった時代であつた。母親が蚕から真綿を取って着物に使った。紙のない時代であつたので、走りこでは古雑誌をもらった。紙がないので、一般家庭ではトイレの後処理を藁を柔らかくして尻を綺麗にした。今から思うと原始生活であつた。



ネムタ祭之図 奥民図彙より

※「奥民図彙」比良野貞彦 弘前藩士で1788〜189年の藩内様子を記録

◆ 歯なしの話 ◆

佐藤 透

「平成天皇の御心境に寄せて」
天皇家のことを文章に書くのは、戦前であれば恐れ多くとも出来ないことだったに違いない。幸いな事に我々の時代は、あまりにひどいコメントでなければ、多少の事柄に触れても構わないものと考えられる。

今回のように崩御により代が変わるのではなく、本人の希望によるというところが今までのあり方とは異なる。最近の天皇・皇后を見ていると、やはり肉体的な衰えがみられるのではないかと。両陛下の歩行時に、特に心もとない二人に見える。多くの国民がそのように思っていたのではないだろうか、私自身勝手に推察する。

天皇もそうだが、案外と皇后の方が少々覚束ないのかとも思った。(階段を降りる二人を見ているとそう思えた。)皆様ご存じの様に天皇は非常に相手思いの人であることが、言葉の端々に感じられる。しかし近年自分の体力や時に御言葉にあやふやな事なども、気にしていたのではないだろうか。そこで全く行事が出来なくなるのは、国民の為に困るのではないかと天皇陛下は考えていたのではないだろうか?

我々庶民でも仕事の止め時を考える時があるので、ましてや、国全体の事を考えて思ひやっているとお方にしてみれば、なおさらなのではないかと思ひ描く。やはり天皇・皇后両陛下は偉大なり。

そして、崩御によらない年号の変換は喪に服した前回と違い、皆さん案外と明るく向かえ(迎え)られたようである。

皇居参拝しかり、渋谷での参集しかり、また、テレビ等の報道しかりである。
このようなチェンジも悪くないと思える。

◆◆ 短歌 ◆◆

孫の住むかの地の震災ニュースきく
一人暮らしの声のかわらぬ 藤村みち女
人よりも進化した者いるこの世
神のリークで人は知るのみ 浅利 茂雄
風光りウオークラリーに汗かきぬ
深き眠りに朝は美し 笹森 一郎
米作りに生きて来し父遺したる
五反歩の土地今も艶やか 福井 伝馬
地下をどう動くマグマの温泉地
露天の風呂の雨も楽しむ 清水稼志男